

と畜検査で発見される病気 牛編 No7 肝蛭症・膵蛭症



☆ 肝蛭症って？

肝蛭（かんてつ）という2～3cmの木の葉の形をした寄生虫が、反芻動物（牛・羊・山羊など）の胆管に寄生することで発症します。食欲不振・貧血などを起こすこともあります。多くは無症状で経過します。また、まれに人に寄生することもあり、腹部の激痛、嘔吐などを引き起こします。

☆ 肝蛭の生活環

寄生虫は一般的に発育ステージごとに宿主を変えます。肝蛭の場合、水中で孵化した虫卵は、ヒメモノアラガイという小型の巻貝の中で成長した後、水草に付着し、それを摂取した動物の腹腔内で胆管に移行します。人は、水草に付着した、あるいは牛の生レバーにいる幼若な肝蛭を摂取したときに感染します。（しかし、肝蛭が寄生した肝臓はと畜場で廃棄されるので、市場に出回ることはありません。）

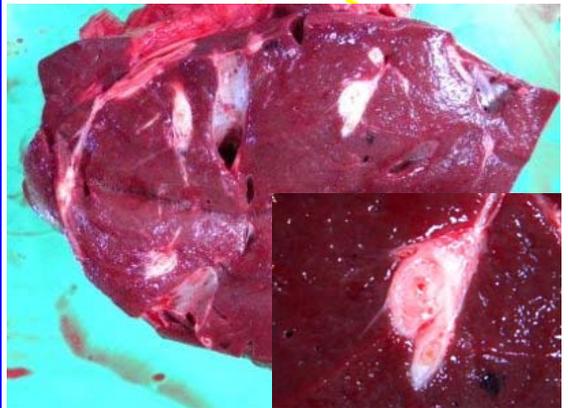
☆ 膵蛭症って？

膵蛭という寄生虫が、反芻動物の膵管に寄生することで起こり、膵炎を起こします。（多くは無症状ですが、重症例では消瘦、貧血などの栄養障害を起こすことがあります。）人に寄生することもあります。

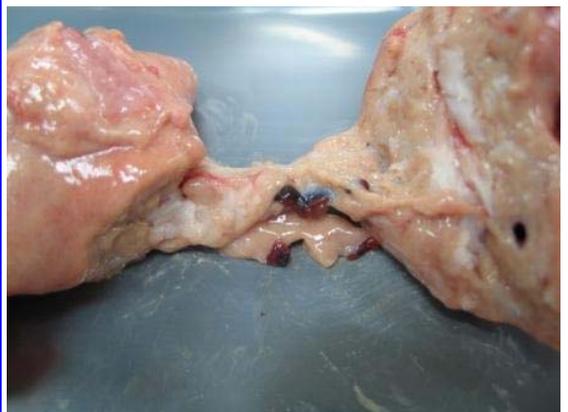
☆ 膵蛭の生活環

虫卵がカタツムリ類（オナジマイマイ、ウスカワマイマイ）に摂取されると、カタツムリ類の中で孵化し、成熟後、呼吸口から排出され、草に付着します。これをササキリという昆虫が摂取し、さらに成熟した後、反芻動物が草と一緒にササキリを採食して、感染します。反芻動物の体内では、十二指腸から膵管を遡上し、膵臓で3～4か月発育を続けた後、また虫卵を排出しはじめます。

肝蛭寄生により、胆管炎を起こした肝臓



膵管に寄生した膵蛭



膵蛭

